

HOYA株式会社

FY26 Q1 決算説明資料

2026年7月31日

FY26 Q1業績



FY26 Q1 連結業績

- ・【売上収益】ライフケア、情報・通信事業ともに順調に推移し、連結売上は二桁の増収となった。
- ・【通常の営業活動からの利益】 両事業ともに収益性が拡大し、増収率を上回る強い着地となった。
- ・ 売上/通常の営業活動からの利益ともに、四半期ベースで過去最高を更新。

売上収益
2,557億円
+16%
(CC +7%)

通常の営業活動からの利益
824億円
+24%
(CC +17%)

税前利益
860億円
+28%
(CC +20%)

【ご参考】ROIC [税引後営業利益/投下資本 (有利子負債+純資産のうち親会社の所有者に帰属する持分)]・・・23.8%

USD

160.72円

-11.8% (円安)

EUR

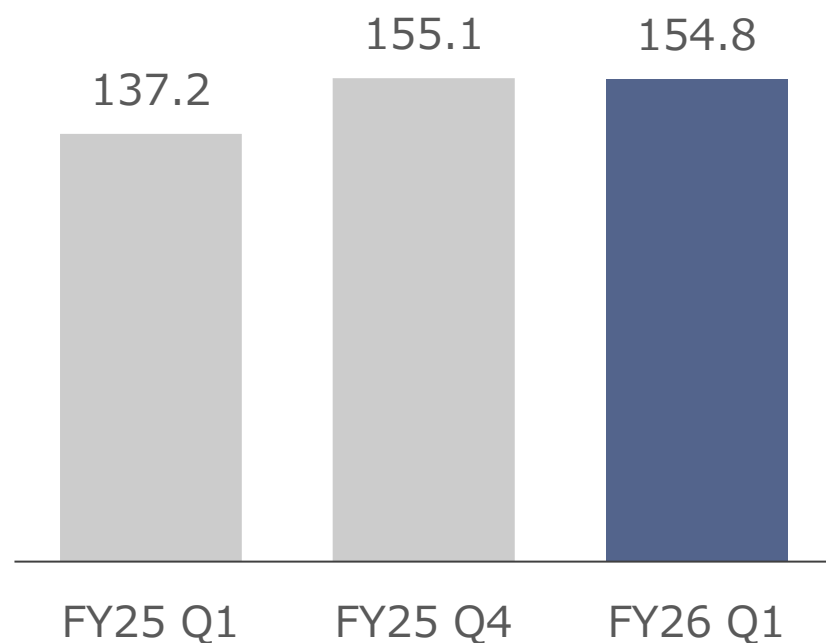
186.13円

-12.7% (円安)

ライフケア事業概況

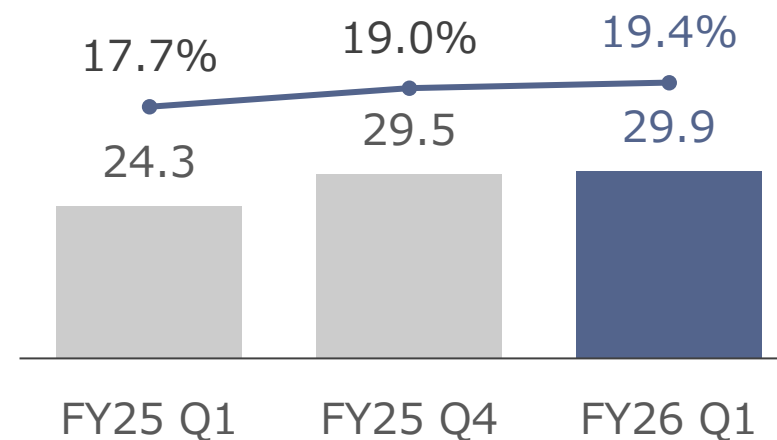
- 【売上収益】全体的に底堅く推移したことに加え、為替換算のプラス影響もあり二桁の増収。
- 【通常の営業活動からの利益】費用の継続的な合理化等により、YoYで収益性が大きく改善。

売上収益 (十億円)



+13% (CC +3%)

通常の営業活動からの利益/利益率



+24% (CC +15%)

ライフケア事業 製品別概況：メガネレンズ

売上成長率
+16%
(CC +4%)

- 日本や中国などのアジア地域が成長をけん引。チャネル別では、大型チェーン向け販売が堅調に推移した。
- 第2世代製品MiYOSMART iQの中国での拡販に加え、中国以外の地域での横展開も進展した。
- 引き続き高付加価値製品の拡販と新製品の市場浸透を通じて、持続的な成長を目指す。



ライフケア事業 製品別概況：コンタクトレンズ（eyecity）

売上成長率
+3%
(CC +3%)

- 来店客数の増加ならびにサブスクリプション等の利用拡大による顧客リテンション改善を背景に、売上は堅調に推移。
- 高付加価値商品の継続的な売上ミックス拡大により、顧客単価が上昇。
- 引き続き、顧客利便性の向上や高付加価値商品の拡販を通じて、顧客基盤の拡大に取り組む。



ライフケア事業 製品別概況：内視鏡

売上成長率
+8%
(CC -4%)

- 欧州で前年並みの売上を確保したものの、中国市場のマイナスが継続。
- 日本の内視鏡事業の分社化（8/1）、工場の統廃合など計画に沿って構造改革が進捗
- 事業ポートフォリオマネジメントの一環として、内視鏡事業の第三者への事業譲渡その他戦略的オプションの検討開始



ライフケア事業 製品別概況：眼内レンズ

売上成長率
+17%
(CC +9%)

- 中国で減収が続いたものの、日本、欧州を中心にその他地域は堅調に成長した。
- 三焦点レンズの販売拡大により、ATIORの売上構成比が上昇し、売上成長に貢献。
- 引き続きATIORの拡販を進めていく。



Vivinex™ multiSert™

ライフケア事業 製品別概況：人工骨ほか

売上成長率
+15%
(CC +6%)

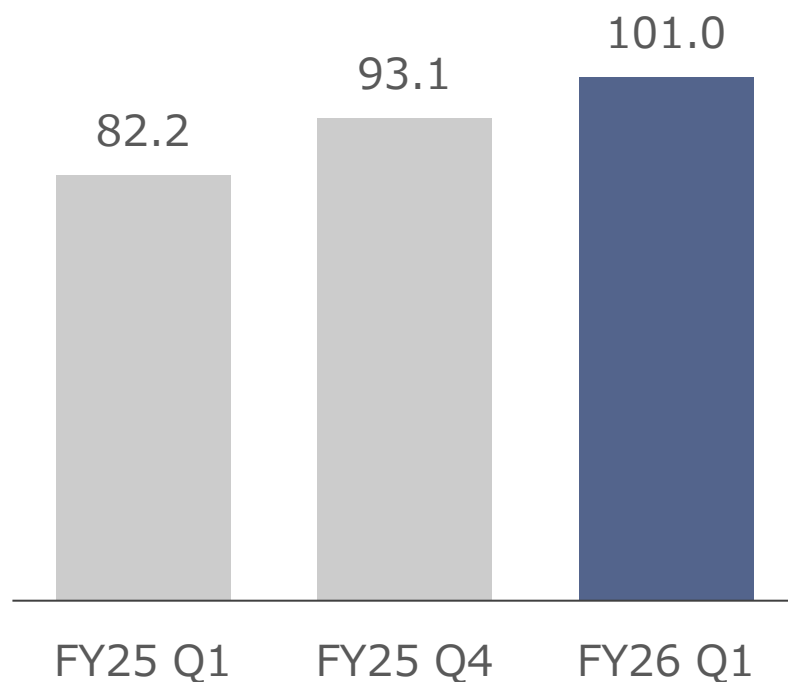
- 内視鏡洗浄機や金属インプラントの販売が堅調に推移し、二桁の成長となった。
- 他方、クロマトグラフィー担体は顧客の在庫調整が継続し、減収。
- 主要市場・主要顧客に依存しない拡販領域の開拓と、オペレーション・収益基盤の強化を通じて、安定的かつ持続的な成長を図っていく。



情報・通信事業概況

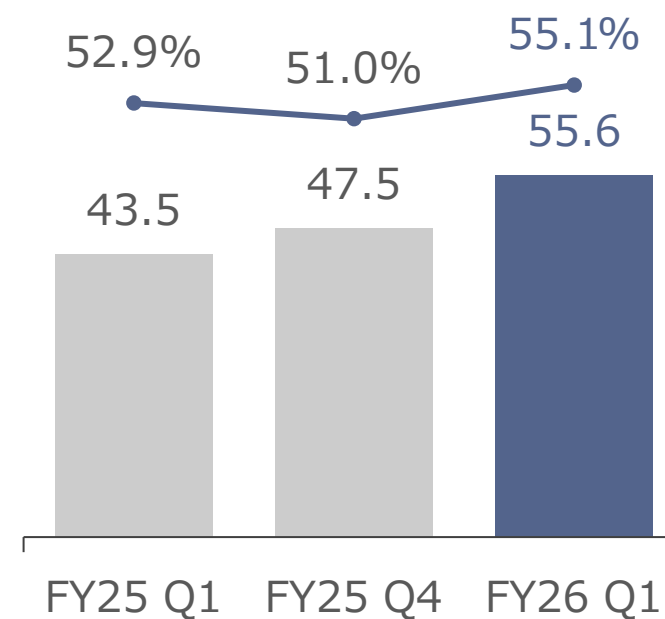
- 【売上収益】LSIとHDD基板に加えて、光学ソリューション（旧映像）の力強い伸びが全体の増収に貢献した。
- 【通常の営業活動からの利益】増収効果や高付加価値製品のミックス増により、利益率が上昇。

売上収益 (十億円)



+23% (CC +15%)

通常の営業活動からの利益/利益率



+28% (CC +19%)

情報・通信事業 製品別概況：LSI

売上成長率
+21%
(CC +18%)

- AI関連需要を背景に、先端半導体向けEUVブランクス需要は堅調に推移。
- 位相シフトマスク（PSM）などの高付加価値EUVブランクスの販売拡大により、売上が伸長した。
- 競争力を確固たるものとすべく、引き続き顧客のパフォーマンス向上に寄与するブランクス、High NA等の次世代ブランクスを開発を推進していく。



情報・通信事業 製品別概況：FPD

売上成長率
+9%
(CC +2%)

- ・ 前年比較で中国・重慶工場の稼働率向上を背景に、中国顧客向け売上が拡大し増収。
- ・ スマートフォン、折り畳みスマホ、IT OLED向けを中心に新製品開発需要が底堅かった。
- ・ 今後も折り畳みスマホやVRなどのウェアラブル機器に加え、OLED搭載のAI PCやゲーミングPC向け需要の拡大を見込む。



情報・通信事業 製品別概況：HDD基板

売上成長率
+29%
(CC +15%)

- 活発なデータセンター投資を背景にニアラインHDD需要が引き続き拡大、3.5インチ基板は大幅増収となった。
- HAMR技術の採用拡大、プラッタ枚数の増加など、ガラスを必要とする高容量化に引き続き進展が見られた。
- 需要拡大を見据え、ラオス工場の稼働率を上げるとともに、HAMR向け基板や多枚数化に対応した薄型ガラス基板の生産体制整備を進めていく。



情報・通信事業 製品別概況：光学ソリューション（旧映像）

売上成長率
+22%
(CC +11%)

- 映像（カメラ）以外の用途での需要も拡大しており、事業の実態をより適切に表現するため、今回の決算より光学ソリューションに名称を変更。
- 光トランシーバー向け偏光ガラス（CUPO）の販売が力強く推移し、全体の伸びをけん引した。
- CUPOの生産能力増強を進めるとともに、ウェアラブル向けレンズやAR関連製品の拡販に取り組む。

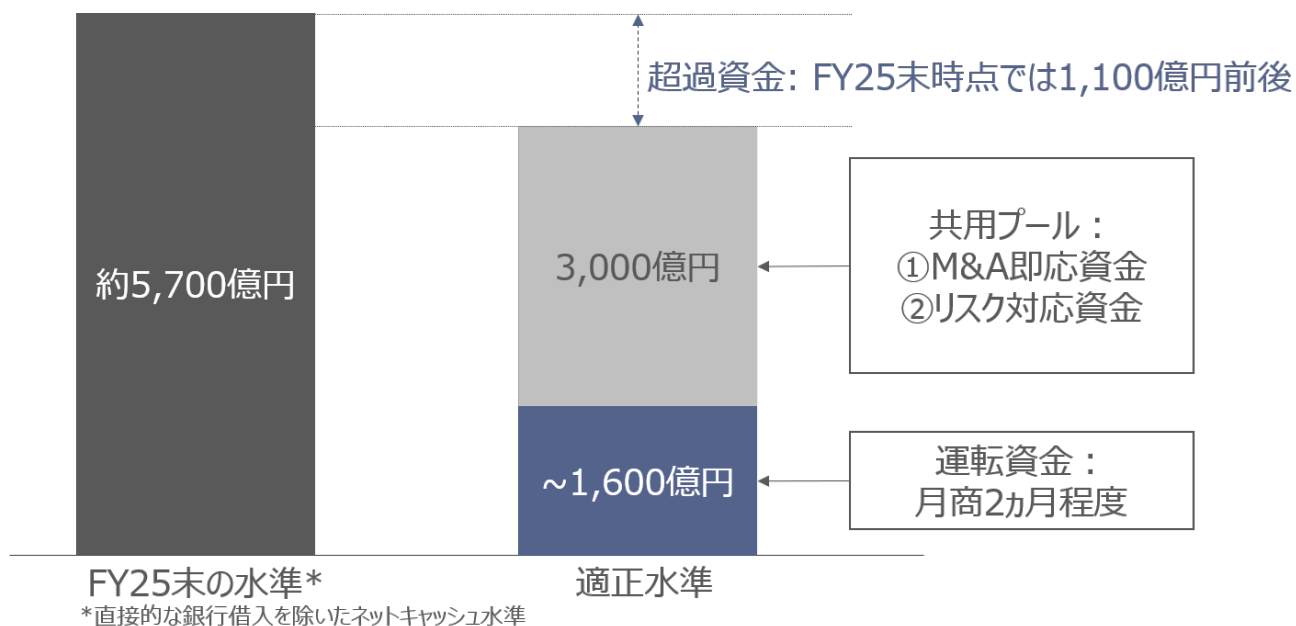


株主還元

- 本年4月、資本効率のさらなる向上を目指し、B/Sのネットキャッシュ水準を1,100億円程度減少させる方針を公表。
- 同方針のもと、創出キャッシュフローや投資資金ニーズなどを総合的に勘案し、2,000億円の自社株買いを決議した。

適正ネットキャッシュ水準の考え方

(FY25 Q4資料からの再掲)



自社株買いの概要

実施期間

2026/08/03~2027/03/24

金額上限

2,000億円

株数上限

1,000万株

発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合 2.99%

ガイダンス

- ライフケア事業、情報・通信事業ともに主要製品の需要は堅調に推移する見通し。特にメガネレンズ、EUVブランクス、HDD用基板および光学ソリューションが成長を牽引し、二桁の増収増益を見込む。

Q2			
(億円)	FY25 Q2	FY26 Q2	YoY
売上収益	2,345	2,653	+13%
通常の営業活動からの利益	702	826	+18%
税前利益	719	840	+17%
四半期利益	550	652	+19%

上期			
(億円)	FY25 H1	FY26 H1	YoY
売上収益	4,590	5,210	+15%
通常の営業活動からの利益	1,364	1,650	+21%
税前利益	1,393	1,700	+22%
当期利益	1,064	1,310	+23%

将来予測に関する記述

当社は、将来計画および業績見通しに関する情報の言及や情報開示を行う場合があります。歴史的事実に関するものを除く全ての記述は、将来予測と見做される可能性があり、資料作成時点における経営者の想定や入手しうる情報に基づくものです。これには、為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上/収益性/設備投資/キャッシュ/その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、臨床または研究開発能力、顧客の行動または商慣習、医療費償還制度、疫病や健康問題などの影響を含みます。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。また、新たな情報や将来の出来事などの結果を受けて、将来予測に関する記述を更新する義務を負いません。

本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2026年4月～2027年3月の会計期間を2027年3月期もしくはFY26と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
％は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ 「通常の営業活動からの利益」は、税引前四半期利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。
<https://www.hoya.com/investor/kessan/>

Innovating For a Better Tomorrow

HOYA